

ソフトウェア
開発

(一財) 日本科学技術連盟 平成28年度
「日本品質奨励賞 品質革新賞」受賞



「プロアクティブソフト開発システム」導入で、組織的に社員の困りごとを先取り解決する業務の仕組みを導入し、5年間で開発費を半減、納期遅延ゼロを達成！

株式会社エイ・ダブリュ・ソフトウェア

- 札幌市厚別区下野幌テクノパーク2丁目1-6
- 代表者：取締役社長 伊藤 康伸
- 設立：平成8年12月
- 従業員数：179名
- 事業内容：カーナビ・高度道路交通システム向けの地図データベースおよびアプリ開発
- URL：http://www.aw-sw.co.jp/



ビジネス上の「課題」

- ・競合製品の増加、スマホナビの台頭
- ・納期遅延による失敗の経験
- ・発注元からの開発費半減要請

競争激化への対応、
開発体制の見直し

IT導入の「狙い」

- ・顧客要求仕様や各国の法制度の変化への迅速な対応
- ・開発プロセスの革新による開発費削減
- ・見える化による社員間の協力体制実現

組織的に変化を先取りし
対応できる体制の構築

IT導入の「効果」

- ・わずか4年で開発費を半減
- ・納期遅延の撲滅
- ・働き方の大幅改善

開発費半減と
納期遅延撲滅を実現

㈱エイ・ダブリュ・ソフトウェアは、アイシングループの自動車部品製造会社アイシン・エイ・ダブリュ(株)の100%出資により札幌テクノパークに設立。カーナビ用地図データベース・アプリケーション開発を専門とし、トヨタのみならず世界の自動車メーカーに納入している。カーナビの開発を通して培った技術をベースに高度運転支援・コネクティッドカーといった新しいカーライフの実現に向け邁進している。

競争激化をきっかけに、変化に対応できる組織的な開発体制を模索

リーマンショックやスマホナビの台頭、カーナビ製品数の着実な拡大に対して改善活動で13%の効率化を図ってきたが、平成23年以降、製品数のさらなる拡大で競争が激化し、5年間で開発費を半減しなければならぬ、重要かつ緊急の経営課題に直面した。この課題に対応するため、ダントツの開発力を持った唯一無二の集団構築を目指すこととし、開発プロセスの革新を検討した。

ソフトウェア開発は顧客要求の変化・各国の法制度の変化・仕様の変化・

スケジュールの変化・人の変化等、日常的に変化する要素が多く、変化を前提としたソフトウェア開発の仕組みを構築する必要があった。過去の失敗からの学びにより、さまざまな変化によるリスクへの対応が後手後手にならないよう、変化を先取りする組織的な仕組みの構築が不可欠と判断し、「プロアクティブ(前向きな、先を見越した、事前対策的な)ソフト開発システム」の構築に取り組んだ。

課題先取りで開発費半減、納期遅延撲滅

こうして始まった取り組みは、変化があることを大前提に、現場の「見えにくい」「言いにくい」「聞きにくい」を組織全体で徹底的に共有し、変化を予測して事前に対応し、他の工程・他のプロジェクトへのしわ寄せも未然に防ぐことに重点が置かれた。大型モニターに作業チームごとの工程進捗を表示、遅延や不具合などの変化(計画とのズレ)を黄・赤のランプでアラーム表示し全社で見える化し、現場で解決できない変化や予兆に対しては、管理者とチームリーダーによる「課題ミーティング」で対策が討議される。プロジェクト完了時には振り返りを徹底、次回計画策定時の予測能力向上にノウハウとして生かす仕組み(右写真)。

この取り組みを通じ、5年間で開発費を半減する目標は1年前倒しで達成した。平成22年時点で約5割のプロジェクトに生じていた納期遅延も3年目の25年以降は0に撲滅した。

さらに、会社全体の仕事量は増加する中であって、計画的に仕事を進められる体制が整い、有給休暇取得率が上昇し休日出勤や残業は減少、社員の働き方は大きく改善されている。今後は変化の発生をデータベース化してプロジェクト計画の超高精度化を図るほか、顧客への導入を促進する予定。



ITコーディネータから一言

ソフトウェア開発に限らず、組織的に仕事を行う上で、他部門・他プロジェクトが抱える問題点を見る化・共有することにより、相互に気付き・解決策提言を行うことで、生産性向上ならびに社内環境(雰囲気・労務環境・社員の意識)が向上します。また、中小企業の人材採用難に対する解決策の一つとも言えるかと思えます(石塚)。